

【教育目標】 一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かい教育を行い、自信と意欲を育てることによりもてる力を伸ばし、社会において自立的に生きていく基礎を培う

【評価基準】 A:達成できた〔(A+B) 95%以上〕 B:概ね達成できた〔(A+B) 90%以上〕 C:あまり達成できていない〔(A+B) 85%以上〕 D:達成できていない〔(A+B) 85%未満〕

本年度の重点目標		推進担当	達成目標	具体的な取組	成果と課題	保護者等評価	教員自己評価	評価	考察	今後の取組
家庭や社会で自立的に生きていく力を育てる指導の充実	家庭生活、社会生活、職業生活につながる学習内容、指導方法の工夫をする。	学習指導部	・系統性を踏まえた年間指導計画の充実を図る。	・各教科の指導内容がもれなく組み込まれているか、発展的・系統的な指導内容の配列になっているかなどの観点から年間指導計画の検討を行う。 ・単元ごとに実施後の反省を行い、その内容を授業改善や次年度の年間指導計画作成につなげる。 ・教科等係会を活用し、各学部内で必要な情報を共有し、授業計画を行う。	・単元題材指導計画の反省を行い、ねらいや学習内容の見直し・改善を行うことができた。学部反省と併せて学習内容の系統性や授業改善を行い、次年度にむけ年間指導計画の見直し検討を行っていく。 ・小学部では、生活単元学習を中心に、各単元における各教科等との関連の明確化と単元配列の工夫をし、効果的な指導につなげられるようにした。中学部では、教科等の実施時期にあわせて、配列を工夫し、効果的な指導につなげられるようにした。高等部では、校内研究に合わせて各教科等との関連(学習内容やねらい)などの確認を行った。次年度にむけ年間指導計画の見直し・検討を行った。 ・検討事項や共有することを具体的に提示し、教科等係会の充実を図ることができた。教材・教具や必要な情報が共有できるように、必要に応じて学部の最後に各教科からの連絡事項を設けている。教科等係会での必要な情報を共有することが課題である。	A+B 98.4%	A:59.8% B:38.6% C:1.6% D:0%	A	・各学部で各単元における各教科との関連や単元配列を工夫し、効果的な指導につなげられるようにしたことが評価につながったと考えられる。	・教科等係会の目的を見直し、係会の持ち方の検討、共有事項の整理を行っていく。 ・係会の情報を学部会で周知し共有したり、必要に応じて係、学部等で検討したりし、年間指導計画、指導実践に反映できるようにしていく。 ・生活に関連する学習について、保護者の方から様々な御意見をいただいている。各学部の実態に応じて金銭、調理、清掃など生活に関連する学習に取り組んでいるが、学習指導要領を踏まえながら、キャッシュレス決済や公共交通機関の利用機会拡大など、保護者からの意見を参考に、今後も自立に向けた学習活動を充実させていく。
		研修部	・各学部が研究主題に基づき研究を進める中で、家庭や社会で自立的に生きていく力を育む授業づくりを行う。	・校内研究日を年5回(年度末報告会を含む)設ける。 ・研究成果を全教員で共有し授業改善に生かし、学びをつなげる。 ・学習の様子をホームページや学年懇談会などで保護者に発信し家庭へつなげる。 ・ICT関係研修の企画・運営をし、ICT活用を含む教材教具の工夫につなげる(教務部との連携)。	・校内研究日については、実施計画を立案し、学部ごとに実施することができた。 ・年度末には、各学部の研究成果を全教員で共有し授業改善に生かし、学びをつなげる。 ・学習の様子を学部ごとにホームページや学年懇談会などで保護者等に伝え、家庭につなげることができた。学部によって発信の頻度が異なるので、統一が必要か検討していく。 ・教務部と連携し、夏季休業中にICT研修を開催し多くの教員が参加し教材教具の工夫につなげることができた。	A+B 98.5%	A+B 100%	A	・保護者等、教員とも高い評価を得られた。 ・保護者は、自立につながる基本的な内容(着替えや身だしなみ)や買い物学習、清掃など日常生活に必要な力が養われているとの意見を多くいただいた。 ・年度初めに研究の目的や進め方、留意点など全教員で共通理解を図り、計画的に実施することができた。 ・研究成果を全教員で共有し授業改善に生かすことができた。 以上のことが理由として挙げられると考える。	・校内研究を通して、家庭や社会で自立的に生きていく力を育む授業づくりの検討を今後も継続していく。 ・研究の成果や日頃の学習の様子など、各学部同じような頻度で、保護者に分かりやすくホームページで発信することを心掛ける。
		進路指導部	・各学部で職業生活に必要な能力を身に付けることができるように学習内容の工夫を行う。	・進路指導研修などで小学部段階、中学部段階、高等部段階で必要となる学習目標の共有を行う。 ・職業生活に必要な能力について共通理解を図り、学習内容、指導方法の工夫につなげる。(学習指導部と連携) ・取組について保護者等会やホームページで周知する。	・中学部の学部会や高等部の学年会で進路研修を行うなどして、各段階で必要となる学習目標の共有を行うことができた。 ・「職業準備性ピラミッド」について共有し、日頃の学習内容について確認することができた。学習内容にどのように結び付けていくかを各段階で検討し実施することが課題である。 ・保護者等会で取組について説明することができた。	A+B 99.2%	A:56.7% B:42.5% C:0.8% D:0%	A	・保護者等、教員とも高い評価となっている。 ・進路指導研修、中学部の学部会、高等部の学年会、職員会議後のミニ研修などを実施したこと、保護者等会で取組について説明したことが、評価が高くなっている理由と考えられる。	・今後は、挨拶、基本的生活習慣の習得を中心に小、中、高の各段階で学習内容にどう取り組んでいくかを検討していく。 ・取組について保護者等会やホームページで周知していく。
		高等部	・作業学習の班編成や学習内容等について、工夫や充実を図る。	・進路指導部と連携しながら、職業生活とのつながりを基軸に検討・工夫を図る。 ・作業班チーフや学年主任を構成員とした検討会の中で、課題の整理や必要事項の検討を行う。 ・学部会で進捗状況を報告したり、必要事項を検討したりしながら、学部内の共通理解を踏まえる。	・進路指導部と普段の学習や実習、卒業後の職業生活等について日頃から情報交換を図ることができた。 ・今後の生徒数や学習場所等の予測を踏まえて、検討会の中で課題の整理と改善事項を検討できた。 ・改善案の検討を重ねた上で、しかるべき段階で学部職員等への周知を図る。	A+B 100%	A:51.7% B:48.3% C:0% D:0%	A	・保護者等、教職員とも肯定的評価が得られている。 ・進路指導部の評価から考察すると、系統的な進路指導が高評価を支えていると考えられる。また、作業学習班チーフの日々の学習内容の工夫が教員の信頼を得ていることも高評価の要因であろう。	・来年度に向けた課題の整理や改善が残されている。検討会を計画的に活用しながら、生徒の実態や進路の現実を見据えた更なる工夫を検討し次年度への準備を整えたい。
	健康で安全に生活する意識と実践力を育成する。	児童生徒指導部	・危険を察知する力を高める安全教育を行う。	・「学校安全マップ」の点検を行い、学校周辺の危険箇所を把握する。 ・各種会議や危機管理研修会などで、学校周辺の危険箇所を周知する。 ・散歩学習や通学における安全指導、防災教育等において「学校安全マップ」を活用する。 ・取組について保護者等会やホームページで周知する。	・危機管理研修において、全教員が学校安全マップに記載されている危険箇所の実地確認や活用方法について話し合い、自転車通学生徒の安全指導や徒歩学習の際に、危険箇所について指導することができた。 ・保護者等会で取組について説明・報告することができた。 ・研修での意見を取り入れた改定版を今年度中に作成できるようにする。	A+B 98.5%	A+B 99.2%	A	・保護者等、教員とも、おおむね良い評価を得ることができた。保護者等については、保護者等会の際に不審者対応訓練の報告や学校安全マップの紹介、職員研修での危険箇所点検やマップの活用方法の協議等を報告したことで、取組に対して周知できたためと考えられる。また、教員については学校安全マップの研修を通して危機管理への意識が高まり、安全を意識した指導がなされたことが考えられる。	・学校安全マップは、安全指導の際により活用してもらえるよう改訂版を作成し、危険察知を高めるために活用できるようにする。また、これ以外の内容についても指導していき危険察知の力を高めていく。保護者等には、今後も安全教育に関する取組等を保護者等会やホームページ等で周知することを継続していく。
		健康安全指導部	・自分の身を守る、より安全な行動をとることができる力を高める防災教育を行う。	・熱中症や感染症などについての理解を深め、自分のできる対応をとれるように安全教育を行う。 ・自分の身を守る行動がとれるように、避難訓練の事前学習や事後学習をととして、災害時や生活の中で起こりうる危険や避難の際の危険について、指導を行う。 ・避難訓練の様子をホームページで発信し、家庭での防災教育の啓発を図る。	・熱中症の予防方法や対処方法などについて、校内掲示板や学部会、朝の打ち合わせ等で発信し、周知した。熱中症のリスクの高い小学部においては、学部の対応を検討し、実態に応じて対応できるよう共通理解した。感染症対策についても随時発信し、安全教育につながるようにする。 ・起こりうる危険や身の守り方などに関する内容のパワーポイントを作成した。避難訓練の事前学習や事後学習で活用し、指導することができた。 ・各種訓練や職員研修の様子について、ホームページで発信することができた。家庭で取り組んでほしいことについて文章に盛り込んだ。	A:71.6% B:26.9% C:1.2% D:0.3%	A+B 100%	A	・熱中症や感染症に関する情報を積極的に発信することで、教員の意識が高まり、児童生徒への指導に生かされたと考えられる。 ・様々な避難訓練を実施することで、状況に応じた身の守り方やより安全な行動をとれる力が身に付いてきていると考えられる。実生活の中で生かされている様子が見られたり、訓練の様子をホームページ等で保護者等へ発信したりしていることが、高評価につながったと考えられる。	・安全教育や防災教育に関する研修の実施や情報の発信を今後も継続して行う。 ・より実践的な内容で避難訓練を実施する。 ・訓練や研修の様子をホームページで発信し、家庭での防災教育にもつなげられるようにする。
	家庭への情報提供や連携を工夫し、学んだことを生活につなげる。	教務部	・ICTの活用を推進し、家庭や地域への情報発信力の向上を図る。	・ホームページの保護者専用ページに載せる学年だより等の様式を見直したり、ページの活用法を検討し、提案したりすることで、学校での取組を家庭につなげられるようにする。 ・一般用のページについても分掌部や学部と連携し、充実を図っていく。 ・ICTについての研修を行うことで、授業づくり・教材作成に生かせるようにする。(研修部と連携)	・学年だよりや学習の様子用の様式を作成し、提案することでホームページの保護者専用ページの更新回数が増えてきている。学校での取組を家庭に知っていただくことにつながっている。また、一般ページについても、各校務分掌部ごとに取組の発信が充実してきている。今後、一般ページと保護者専用ページについての掲載内容について整理し、ルールについても明確にすることが必要と思われる。 ・研修部と連携し、研修を実施することができた。教材作成、授業づくりへの活用につながった。	A+B 94.5%	A:50.4% B:44.1% C:4.7% D:0.8%	B	・ホームページを見やすくリニューアルし、更新頻度があがったこと、保護者専用ページを作成し、各学部、学年ごとに学習の様子を写真を中心に伝えたことが保護者等からの高評価につながったと考える。 ・保護者等と比べ、教員の評価がやや低いが、一般ページと保護者専用ページの掲載内容の分類や、掲載ルールが曖昧であったことが要因の一つであると考ええる。	・掲載内容の整理、ルールの明確化を図ることで、より分かりやすいホームページを目指していく。 ・ホームページの更新を伝えるメールの定期的な配信により、情報発信力を高める。 ・保護者等の方から、メールなどで発信する情報量の多さからくる課題、学校での学習活動の情報提供に対して様々な御意見をいただいている。今後、一斉メールの配信情報の整理、ホームページを活用した情報発信方法の工夫を行い、保護者等に分かりやすく確実に情報が届くように取り組む。
		小学部	・保護者等に学習の様子をわかりやすく伝える。	・ホームページでは保護者専用ページを活用し記事を掲載する。 ・保護者等会の学年懇談や個人懇談では画像や動画で授業の様子を伝える。	・学年だよりの書式を見直し保護者専用ページに掲載することができた。また、保護者専用ページに児童の表情豊かな学習活動や日常生活の様子の写真を定期的に更新することができた。 ・学年主任や担任が学年懇談会や個人懇談で画像、動画を見せ授業の様子を詳しく伝えることができた。今後は分かりやすく伝えるだけでなく家庭と連携できる学習内容についても伝えていきたい。	A+B 97.3%	A:74.8% B:22.5% C:1.8% D:0.9%	A	・保護者専用ページを活用し学校生活や学習の様子を定期的に更新したこと、学年懇談会・個人懇談時に動画や画像を見ながら保護者等に学習の様子を詳しく伝えたことが高い評価につながったと思われる。	・今後は学校生活や学習の様子と併せて制作した作品等の記事を更新していく。 ・引き続き保護者等に分かりやすく情報を発信しながら家庭と連携できる学習内容を共有していく。
		中学部	・清掃の学習内容の統一・家庭との連携で学習の定着を図る。	・清掃(机拭き、掃き掃除)について基礎的な知識と技能を身に付けられるよう、日常生活の指導、生活単元学習、職業・家庭、校内実習を中心に道具の扱い方や手順について指導を行う。 ・学習の様子をタブレットで記録し、個人懇談で保護者等に伝える。 ・長期休業前にワークシートを準備して家庭生活で実践できるようにし、家庭と連携して行う。	・手順表やワークシートの作成を行い、学部全体で共通して指導にあたることができた。各学年ごとに清掃を行う時間を決め取り組み始めているが、学校と家庭と継続して定着を図ることが課題である。 ・個人懇談や保護者等会で学習した様子をタブレット端末やスライドを使用して伝え、家庭からは手伝いの様子について聞くことができた。また、ホームページに清掃の手順や実際の様子を掲載し情報の発信をすることができた。	A+B 100%	A:64.7% B:35.3% C:0% D:0%	A	・学部及び学年で「清掃」について研修(道具の使い方や机の拭き方など)を行うことで中学部の教員全員が同じ方法で指導にあたれた。 ・生徒の清掃の様子を懇談や保護者等会、ホームページなどで発信したり、長期休業中に課題として出したりしたことで家庭との連携をより深めることができた。 以上の理由により評価が高くなったと考えられる。	・今後も年度当初には研修の機会を設け、指導の仕方について確認する。また、清掃を行う機会を増やしていくことで定着を図っていく。 ・家庭との連携を継続できるよう、引き続き情報発信を行っていく。
人との関わり	人と関わる機会を大切にし、コミュニケーション能力の向上を図る。	特別活動部	・児童生徒会活動を通して、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。	・挨拶運動やえがき放送など、児童生徒が学部を超えて関わりをもてるような活動を行う。 ・児童生徒会役員を中心に、児童生徒が互いに声を掛け合えるような雰囲気作りに努める。	・学期ごとに1週間ずつ、朝、スクールバスの到着時に挨拶運動を行い、役員から児童生徒に声を掛けることができた。他、放送でも、学校行事等の広報を行うことができた。集まることはできなくても、それぞれの学級や学年でポッチャを行うことで、競技を通し学部間でつながることができた。 ・児童生徒数が大人数であり、学部間の交流の設定が難しいものの、上記のような活動が児童生徒一人一人につながるような取り組みとなっている。	A+B 94.5%	A:62.8% B:31.7% C:4.0% D:1.5%	A	・役員活動について、それぞれの学部や校内掲示板等で取り組みを発信することで、活動への教員の理解が深まり高評価につながったと考ええる。特に、のぼり旗をもつての挨拶運動は児童生徒の興味を引きやすく、学部間の交流につながる取組として評価されたと思われる。	・今後も児童生徒会役員を中心に、児童生徒会全体が活性化するような取り組みを展開していけるようにする。

、 地 域 と の 関 わ り を 広 げ る 指 導 の 充 実		相談支援部	・センター的機能充実事業について周知を図り、また、支援方法について検討していく。	・センター的機能充実事業について、各関係機関への周知を行う。 ・外部講師による公開研修会や担当者間で各機関への支援内容を検討し、支援内容の向上につなげる。	・センター的機能充実事業についてホームページやメールなどを利用し、周知することができた。 ・外部講師による公開研修会を実施し、多くの方に参加してもらうことができた。専門的な内容を研修できて支援の向上につながったが、予算がないため今後専門家に講師を依頼することが難しい。支援要請に対しては、複数の教員で支援内容を検討して支援につなぐことができた。	A+B 96.6%	A+B 97.6% A:40.9% B:56.7% C:2.4% D:0%	A	・数値的には表れにくいと思われるが、センター的機能充実事業の周知が広がり支援要請や保育園等訪問など各機関との関わりは増えていること、公開研修会では、ニーズに合った外部講師による対面での研修が行えたこと、などが高評価につながっていると思われる。	・ニーズに合った研修会や支援内容を継続して検討していく。また、人材育成や校内の人材活用も行っていく。
	地域との連携を図り、地域の人材、学校、団体、施設、イベント等を生かした学習活動を工夫する。	渉外部	・地域の人材や施設を生かした活動を行う。	・各行事を運営する際、地域の施設を利用したり、保護者やボランティアと連携を図ったりしながら行う。 ・地域の施設を利用する際、担当者で打ち合わせを行い、利用する際の注意事項を把握し、関係職員や保護者へ伝える。 ・業務内容を明確にした上で、保護者やボランティアの募集や依頼を行う。 ・ろまんちっく村での作業作品展示や学校支援ボランティアによる読み聞かせなど、積極的に新たな取り組みを模索していく。	・PTA総会をはじめ、救命救急法講習会やフィットネスヨガ教室、座談会等、地域の施設（バルティ、富屋地区市民センター）を利用して活動した。また、小学部の運動会では、保護者等やボランティアと連携を図りながら実施することができた。 ・ろまんちっく村での作業製品展示、獨協医大での作品展、学校支援ボランティアによる読み聞かせなど、新たな活動を行うことができた。 ・地域の音楽サークルの方を招いての演奏会や福祉施設（うりずん）との交流など、地域の人材を生かした授業づくりや人との関わりを広げる活動を行うことができた。	A:64.6% B:32.0% C:2.8% D:0.6%	A+B 95.3% A:55.1% B:40.2% C:4.7% D:0%	A	・今年度新たに、ボランティアによる読み聞かせやろまんちっく村・獨協医大での作品展、地域の音楽サークルの方を招いての演奏会や福祉施設（うりずん）との交流など活動の幅を広げることができた。 ・PTA活動も活発になった。 ・主な取り組みをアンケート用紙に具体的に明記した。 以上の理由により、高評価につながったと考えられる。	・引き続き、PTAやボランティアと十分に連携を図り、行事や学習活動を行っていく。また、地域の人材を生かした授業づくりができるよう情報提供を行っていく。 ・活動の様子や展示作品などを積極的にホームページや学部だよりに掲載していく。
	いじめ防止対策	児童生徒指導部	・他の校務分掌部と連携しながら、学校全体でいじめ防止対策に取り組む。	・児童生徒の良好な関係づくりに努める。 ・いじめ防止のポスター等の制作活動を行う。 ・特別活動部と連携し、いじめ防止の呼び掛けを行う。 ・学習指導部と連携し、人権教育で自他の良いところを認め、伝え合うなどの活動を行う。 ・取組について保護者等会やホームページで周知する。	・各学部でのポスター等の制作活動や教育相談、児童生徒会からのいじめ防止の呼び掛け、人権教育では自他の理解を深める指導、人権研修やいじめ防止の研修を行うなど、関係分掌部と連携した取組をすることができた。 ・ホームページへの掲載や保護者等会で取組について説明・報告することができた。 ・ポスター制作活動については、指導計画を立てる上でも早めに計画し、周知できるようにする。		A+B 94.5% A:49.6% B:44.9% C:5.5% D:0%	B	・具体的な取組の内容を各学級、学部、校務分掌で実施したが、児童生徒指導部のいじめ防止に関連したものであるという周知が十分でなかったことが考えられる。	・年度初めのいじめ防止基本方針等の説明の際に、連携する取組の内容について説明したり、実施時期に再度、いじめ防止に関連した内容であることを周知したりする。